退職金の大幅減額問題、第5回団交報告

北大、「社会一般の情勢に適合」を理屈抜きで強行!!

第5回団交で決裂!

2013年1月18日に第5回団体交渉(団交)が行われ、退職金の大幅減額問題について決裂しました。北大は3月1日づけで退職金規程を改定するそうです。

村田理事、世紀の大暴言「(今回の退職金減額は) めぐりめぐって教職員のためになる!!」

その第5回団交の終わりぎわ、村田理事が「(今回の退職金減額は)めぐりめぐって(北大)教職員のためになる」と発言しました。退職金を大幅に減額することが、なぜ「めぐりめぐって教職員のためになる」のか、どう考えてもまるで理解できません。実にひどいことを言うものです。「ためになる」とすれば、村田理事がやがて文科省に帰任するとき、自分のポジションを守る「ためになる」ことぐらいしか思い当たりません。自己の利益を大衆の利益にすり替える、まさに"世紀の大暴言"です。

この発言は、第5回団交の席上、次のような議論の流れのなかで出てきたものです。すなわち、2012年10月15日に組合3役が佐伯学長と会見したとき、同席した村田理事が、北大に出向してきたからには「北大のためになることをする」と、やや古風な言い方をしたことを組合が指摘し、そのうえで「学長会見で言ったことと、今回の退職金減額に関する態度は全く違うではないか」と追及したら、何を思ったか村田理事が突然、上記のように答弁した次第です。

組合、北大教職員の低い労働条件を大いに説明

第5回団交で村田理事は「社会一般の情勢に適合」という法令上の文言に無条件で固執し、組合が提示して丁寧に説明した 10 種類あまりのデータが示す意義を全く無視しました。また、「社会一般の情勢」とは具体的に何を指すのか、組合がいくらたずねても回答しません。正確に言うと、回答できないのです。そして最後に3月1日の強行を宣言しました。

組合が示した 10 種類あまりのデータは、北大教員 は私立大学教員よりも、北大事務・技術職員は国家公 務員、私立大学職員さらに企業労働者よりも、低劣 な労働条件に置かれている実態を十分に示しています。 北大教職員とくに事務・技術職員の労働条件は「社会 一般の情勢」より明らかに低いのですから、むしろ北 大職員の労働条件を「社会一般の情勢」の水準まで向 上させる必要があります。裏面に「参考資料」として、 それらのデータの一部を掲載しておきます。

組合、北大財政の余裕に関する資料開示を要求、 しかし村田理事は拒否!!

退職金は特殊要因経費運営費交付金として文科省から送付されてきますが、これが減額された場合、北大の意思で一般運営費交付金からも、また北大の外部資金からも補填して差し支えありません。そこで組合は最近取得した情報に基づき第5回団交で、国立大学法人の財政運営に関する資料を公表するよう要求しました。これは、第2期中期計画に入って文科省の指導のもと、国立大学法人が重視して実施し始めた財政手法でして、剰余金の新たな管理形態とでも言えるものです。

しかし村田理事は、今回の減額は社会一般の情勢に 適合させるためのもので、北大の財政に余裕があって もなくても退職金の支給基準を見直さなければならな いと、この退職金減額問題で最初から主張している何 ともわけのわからない官僚的主張を再び強調し、組合 の要求を拒否して資料は公開しないとしました。また、 いっさいの代償措置も提示しないとの態度でした。要 するに、最初から退職金の大幅減額ありきで、労働組 合と話し合って一致点を見い出す努力をするという労 働法の基本精神など少しも持っていないのです。

北大教職員は怒りをぶつけよう!!

北大教職員の皆さん、**黙っていたら皆さんの生活が 犠牲になるばかり**です。今回の退職金減額問題のみならず、今後とも次々と労働条件の切り下げが提起されると思われるので、身を守るために怒りを持って立ち上がりましょう。そのためにぜひ組合に加入して、一緒に闘ってください。

2013年01月24日

北海道大学教職員組合

〒060-0811 札幌市北区北 11 条西 6 丁目 北海道大学内

TEL & FAX 011-746-0967

Mail: kumiai@ma4.seikyou.ne.jp http://ha4.seikyou.ne.jp/home/kumiai/ 【表-1】退職金の運営費交付金が減額表-1された場合、北大が補填すべき金額は2012
(2013年
(2013年
(2014年
(2015年
(2015年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年
(2016年

表-1 北大における定年退職予定—人数と金額—

			人数(人	.)		調整率と追	左の2つの退職		
	盐	教育職	一般職	医療職	海事職	神経学とは	金額の差		
2012(平24)年度	96	54	26	13	3	104/100	98/100	1.24億円	
(2013年3月31日退職)	90	34	20			24.97億円	23.73億円	1.24 応门	
2013(平25)年度	98		15	13	4	104/100	92/100	2.73億円	
(2014年3月31日退職)	50	66	10			25.91億円	23.18億円	2./3 応口	
2014(平26)年度	65	41	18	5	١ .	104/100	87/100	2.57億円	
(2015年3月31日退職)	60	41	10	ວ	ı	17.33億円	14.76億円		
2015(平27)年度	69	41	19	0		104/100	87/100	2.55億円	
(2016年3月31日退職)	09	41	19	9	_	17.11億円	14.56億円	2.55 总门	

注1)北大から北大教職員組合に提供された資料より。

表-2 北大における承継職員のうちの定年退職者―年度末退職の人数と退職金額、その実績と予定―

20	及 Z 北大に357 3 不能報長のプラのた牛座報告一牛皮木医報の大数と医報並設、Cの夫帳と子を一														
			実績		予定										
		2009年度	2010年度	2011年度	2012 (平成24)年度	у -т	2013	(平成25)年	变	2014(平成26)年度				
		(平成21)		(平成23)	現行	減額後	左2つ	現行	減額後	左2つ	現行	減額後	左2つ		
		(干成21)	(平成22)	(十成23)	(104/100)	(98/100)	の差	(104/100)	(92/100)	の差	(104/100)	(87/100)	の差		
	人数(人)	50	74	71	54	54	-	66	66	-	41	41	_		
教員	金額(万円)	14億6,202	23億1,786	20億9,973	15億3,161	14億5,362	7799	18億8,268	16億8,708	1億9,560	11億6,430	9億9,449	1億6,981		
	一人平均(万円)	2,924	3,132	2,957	2,836	2,692	144	2,852	2,556	296	2,840	2,426	414		
## E	人数(人)	59	48	40	42	42	_	32	32	_	24	24	_		
教員 以外	金額(万円)	13億2,641	11億806	9億497	9億6,515	9億1,935	4,580	7億784	6億3,100	7,684	5億6,909	4億8,166	8,743		
以が	一人平均(万円)	2,248	2,308	2,262	2,298	2,189	109	2,212	1,972	240	2,371	2,007	364		

注1)北大より北大教職員組合に提供された資料。

[表-3]国家公務員と対比して北大事務・技術職員のラスパイレス指数は87ポイント台。退職間際の事務・技術職員はさらに低く、何と81前後。ところが、「主務大臣の検証結果」はそれで「適正である」と言っている。きわめて不当だ。第5回団交でこれらの許し難い事実を組合が指摘したところ村田理事は、「表-3」の注1)に記載されているラスパイレス指数の意義をしぶしぶ認めた。過去数年間、北大はのらくらと焦点をぼかして、その意義を認めなかった。

表-3 北大事務・技術職員のラスパイレス指数

衣一3 北人事份	121117		// \/ \	/ / \ J D 3/								
			対	国家公務員	Į			+4/14-00				
年度			地域	学歴	地域·学	対他の 国立大学	「国立大学法人北海道大学の役職員の報酬・給与					
		48-51		56-59	勘案	勘案	歴勘案	法人等	等について」に記載されている「検証結果」など			
		歳ゾーン	歳ゾーン	歳ゾーン								
2004(2005年夏公表)	86.6	81.5	78.1	84.4				99.8	「IV 報酬・給与の考え方」ー「②職員給与決定の基本方針」 「・・・国家公務員の給与水準を十分考慮し、社会一般の情勢 に適応した適正な水準に適合させることとしている。」			
					ļ				に過心した過止な小羊に過日ではることとしている。」			
2005(2006年夏公表)	87.1	80.9	78.6	83.7				99.8				
2006(2007年夏公表)	87.1	81.6	80.6	81.9				99.5				
2007(2008年夏公表)	87.1	80.0	80.4	81.0	91.7	86.8	91.5	99.8	「【検証結果】・・・対国家公務員の指数について検証した結果、 社会一般の情勢に適合しているものと考えている。」			
2008(2009年夏公表)	87.0	81.9	80.8	79.6	91.9	86.6	91.8	99.6	「【検証結果】・・・対国家公務員の指数について検証した結果、 社会一般の情勢に適合しているものと考えている。」			
2009(2010年夏公表)	87.3	83.3	81.4	79.2	93.2	86.9	93.0	100.0	「【検証結果】・・・対国家公務員の指数について検証した結果、 社会一般の情勢に適合しているものと考えている。」			
2010(2011年夏公表)	87.1	82.0	80.0	80.0	93.6	86.8	93.6	99.6	「【主務大臣の検証結果】国家公務員に比べ低い給与水準であり、適正であると考える。」			
2011(2012年夏公表)	87.6	83.0	81.3	81.1	94.4	87.3	94.3	99.4	「【主務大臣の検証結果】給与水準の比較指標では国家公務 員の水準未満となっていること等から給与水準は適正である と考える。引き続き適正な給与水準の維持に努めていただき たい。」			

注1)各年度とも「国立大学法人北海道大学の役職員の報酬・給与等について」より。

[表-4]驚くなかれ、4級以上の割合が明らかに下がっている。これでは、北大職員の月例賃金も退職金も低いのが当たり前。北大が成果主義賃金にこだわるなら、こんな結果をもたらした人事担当責任者には、大きなマイナス評価が下されるべきだ。

_表	_表-4 北大事務・技術職員の級別構成														
級し役職	2006年度		2007年度		2008年度 2		2009	2009年度		2010年度		2011年度		2012年度	
布	及 して 役 職	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
1	0							·				-			
- ()														
[部長			3	0	2	0	3	0	4	0	2	0		
7	部長	1	0	4	0	2	0	2	0	2	0	4	0	3	0
- (部長、課長	23	2	17	2	21	2	18	2	17	2	14	2	13	2
Ę	課長、課長補佐	53	5	53	6	49	5	45	5	54	6	58	7	53	6
4	課長補佐、係長	151	16	146	15	131	14	114	13	93	11	82	10	86	10
3	係長、主任	420	43	418	44	415	45	409	47	432	50	423	49	428	49
2	主任、係員	235	24	216	23	201	22	203	23	197	23	207	24	198	23
	係員	87	9	97	10	108	12	85	10	72	8	67	8	90	10
	計	970	100	954	100	929	100	879	100	871	100	857	100	871	100
	5級以上	77	8	77	8	74	8	68	8	77	9	78	9	69	8
	4級以上	228	24	223	23	205	22	182	21	170	20	160	19	155	18

注1)各年とも「国立大学法人北海道大学の役職員の報酬・給与等について」より。

²⁾²⁰⁰⁹⁽平成21)年度退職は2010年3月31日の退職。以下、後年度も同様。

^{3)「}教員以外」は事務・技術職、医療職、海事職。

⁴⁾²⁰⁰⁹年度から2012年度については、ここに掲げた数字が退職金の全額ではない。このほかに自己都合による年度途中の退職などがある。

^{2)「}左のうち」-「〇〇歳ゾーン」の数値は、北大職組が各年の当該グラフから読み取ったもの。

^{2)「}級」は国家公務員行政職(一)の各級に相当していることを意味する。

³⁾ 各年度とも当該年度の4月1日時点の人数。